

わが家の 簡易耐震診断票

この簡易耐震診断票により在来木造住宅の自己診断ができます。
さらに昭和56年5月31日以前建築の場合、専門家耐震診断(無料)もあります。

平成7年の阪神・淡路大震災では、亡くなった方の8割以上が建物の倒壊等による
圧死や窒息死でした。
特に昭和56年以前の旧建築基準で建てられた木造住宅に大きな被害がでました。
東海地震などの大規模地震の切迫性が指摘される今、耐震診断によりわが家の耐
震性を知り、必要な耐震改修・補強をすることが大切です。
蟹江町では、県と協力して住宅の耐震診断事業を進めています。



阪神・淡路大震災の死因

この診断票は、在来軸組構法の木造住宅が対象です。他の構法、構造は診断できません。

まず、以下の問いにお答えください。(○付け)

質問1 あなたの所有している住宅は、いつ建てましたか？

- 1 昭和56年5月31日以前に着工
- 2 昭和56年6月1日以降に着工

※増築した場合でも、最初に建てた年で答えてください。

2に○を
つけた方

耐震性の高い建築基準で
設計されています。

在来構法の木造住宅はこの診断
票で診断可能ですが、評価が低く
ることがあります。

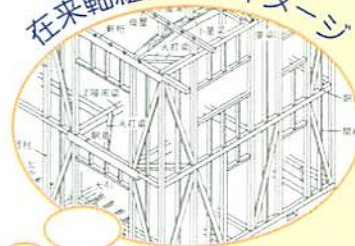
1に○を
つけた方

質問2 その後、昭和56年6月1日以降にその住宅に増築
しましたか？

- 1 昭和56年6月1日以降に増築した
- 2 昭和56年6月1日以降に増築していない

次の質問にも
お答えください。

在来軸組構法のイメージ



質問3 あなたの所有している住宅は、どのような住宅ですか？

- 1 一戸建て木造住宅(在来軸組構法)
- 2 木造長屋、木造共同住宅(在来軸組構法)
- 3 その他の住宅(プレハブ、ツーバイフォー、鉄骨造等)

3に○を
つけた方

この診断票では、診断でき
ません。
耐震性を確認したい方は、
設計者又は建設業者に相
談して下さい。

1・2に○
をつけた方

この診断票の提出は不要です。

次のページからの耐震診断を行い、我が家の耐震性を知しましょう。

2ページの総合
評点をつけた方

質問4 町からの*専門家耐震診断(無料)を希望しますか？

- 1 希望する
- 2 希望しない

2に○を
つけた方

この診断票の提出は不要
です。
住宅の耐震化には努めて
下さい。

1に○を
つけた方

※4ページに専門家耐震診断説明あり

この診断票の提出が必要です。

4ページに住所、氏名等を記載し、役場へ提出してください。
後日、町から、より詳細な診断を行うため専門家を派遣します(無料)。

注) 専門家耐震診断の申請者は、住宅の所有者です。
質問2で1に該当する場合、増築の状況によって専門家耐震診断の対象外となる場合があります。

さあ、わが家の耐震性をチェック!

在来軸組構法の木造住宅用

説明資料を見ながら、次のA～Fの各評点をつけましょう。

のりづけ又はホッチキス止め

診断項目		評点			
	基礎	地盤	良い・普通	やや悪い	非常に悪い
A 地盤・基礎	鉄筋コンクリート造の連続した基礎		1.0	0.8	0.7
	無筋コンクリート造の連続した基礎		1.0	0.7	0.5
	ひびわれのあるコンクリート造の連続した基礎		0.7	0.5	0.3
	その他の基礎（玉石、石積、ブロック積）		0.6	0.4	0.2
B 建物の形	上から見ても横から見ても整っている		1.0	B	
	上から見て凸凹している		0.9		
	1階に壁のない空間がある		0.8		
C 壁の配置 (バランス)	全ての外壁面で壁が1/5以上		1.0	C	
	一部の外壁面で壁が1/5未満		0.9		
	一部の外壁面で壁が全くない（全開口）		0.7		
D 壁の筋かい	筋かいあり		1.5	D	
	筋かいなし・わからない		1.0		
E 壁の割合	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 右の説明資料の E「壁の割合」を見て 記入してください </div>		1.5	E	
			1.2		
			1.0		
			0.7		
			0.5		
			0.3		
F 建物の 傷み具合 (老朽度)	健全		1.0	F	
	老朽化している		0.9		
	腐ったり、シロアリに喰われている		0.8		

説明資料を見てね!

「安全」とは、壁のクラック等の軽微な被害は出るが、継続して使用が可能であることをいいます。

のりづけ又はホッチキス止め

総合判定 (A～Fの各評点をかけ算して総合評点を求めましょう。)

× × × × × =

0.01 < 総合評点 ≤ 2.25 とならない場合はかけ算が誤っています。もう一度計算してください。

総合評点	判定	今後の対応
1.5以上	安全です。	安全と思われませんが、今後とも維持管理を十分に行ってください。
1.0以上1.5未満	一応安全です。	専門家による診断を受け、耐震性を確認してください。
0.7以上1.0未満	やや危険です。	
0.7未満	倒壊の危険があります。	専門家による診断を受け、補強方法について相談してください。

総合評点1.5未満の場合は、専門家耐震診断（無料）をお勧めします。（ただし、昭和56年5月31日以前に着工した在来木造住宅であることが条件です。）

説明資料

簡易耐震診断票の各評点のつけ方

A 地盤・基礎

地盤の状況と基礎の形状により、該当する評点をつけてください。〔基礎〕

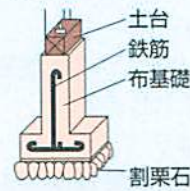
【地盤】

- 良い・普通…岩盤、砂れき層
- やや悪い……はじめから平地、埋立地及び盛土地で大規模な造成工事(転圧・地盤改良)によるもの
- 非常に悪い…水田などの埋立地

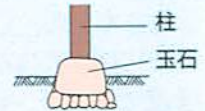
【基礎】

鉄筋が入っているかどうかわからない場合は、鉄筋がないものとしてください。

鉄筋コンクリート造の連続した基礎



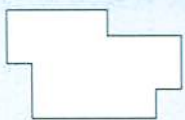
玉石基礎



B 建物の形

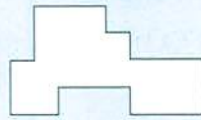
- 建物を上から見たとき、おおよそ四角いか、凸凹しているかで判断してください。
- 建物を横から見たとき、2階が1階より張り出しているところがあるかで判断してください。

上から見ても横から見ても整っている



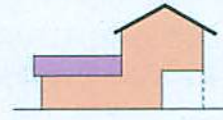
1.0

上から見て凸凹している



0.9

1階に壁のない空間がある



0.8

C 壁の配置 (バランス)

全ての外壁面で壁が1/5以上



1.0

一部の外壁面で壁が1/5未満



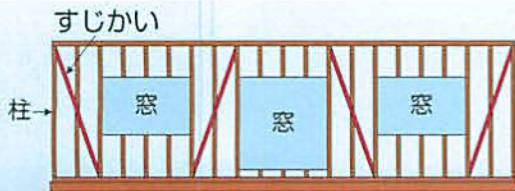
0.9

一部の外壁面で壁が全くない(全開口)



0.7

D 壁の筋かい



筋かいあり

1.5

筋かいなし・わからない

1.0

E 壁の割合

- 1階部分について、下の図を参考に壁の量をだまかに判断し、評点を決めてください。
- 2階建ての場合は、「2階建」の数値を使ってください。

平屋	2階建	平屋	2階建	平屋	2階建	平屋	2階建	平屋	2階建
1.5	1.2	1.5	1.0	1.2	0.7	1.0	0.5	0.7	0.3

F 建物の傷み具合(老朽度)

健全

1.0

- 新築後まもないもの
- 新築時の良い状態が続いているもの

老朽化している

0.9

- 屋根の棟の線や軒先の線が波打っているもの
- 柱に傾きがあり、建具のたてつけが悪くなっているもの

腐ったり、シロアリに喰われている

0.8

- 腐ったり、シロアリに喰われている
- 土台をドライバーで突いてみて、ガサガサになっている。(特に建物の北側と風呂場周り)

のりづけ又はホッチキス止め

のりづけ又はホッチキス止め